

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380182

研究課題名(和文) 政党候補者選出方法の比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study of Party Candidate Selection Methods

研究代表者

庄司 香 (Shoji, Kaori)

学習院大学・法学部・教授

研究者番号：20515647

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、政党による候補者選出のあり方について日本、アメリカ、ガーナの三カ国を事例として分析し、重要なアクターに対する長時間のインタビューを中心とする質的アプローチを用いて、公募制や予備選挙などのフォーマルな制度の運用実態と、事前に展開されるインフォーマルなリクルートメントの過程を明らかにすることを試みた。特に、ガーナについては多数の国会議員への聞き取りを通じて、予備選挙における競争が潜在的候補者の自己選抜や当選後の政策活動に与える影響が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Using Japan, the U.S. and Ghana as case studies, this research sheds a new light on the understanding of the functioning of candidate selection methods used by political parties. The qualitative approach based on extensive in-depth interviews with key actors reveals how the actual implementation of formal institutions, such as “kobo” and primary elections, and the informal recruitment processes preceding them intertwine. The Ghanaian example specifically highlights how the nomination methods impact self-selection by potential candidates and the policy activities once the nominee becomes an MP.

研究分野：アメリカ政治

キーワード：政党候補者指名制度 アメリカ政治 日本政治 ガーナ政治 予備選挙

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究動向

選挙における公認候補者の選び方は、その政党の構成員の特徴や党内権力構造を決めるだけでなく、議会での意思決定に参加できる者を絞り込む機能があり、代議制民主主義の重要な一段階である。しかし、私的団体である政党の候補者選びは法的規制の対象外とされている国も多く、公式の記録がないうえ、制度化そのものが圧倒的に多くの国で長らく進んでこなかったために、研究が遅れていた。予備選挙の採用事例が1990年代に世界に広がるにつれ候補者指名制度への学術的な関心が増し、2000年代以降分析枠組み構築の試みも活性化したが、候補者選出は需要と供給の両方向から多数のアクターがからむ複雑な過程であり、フォーマルな「制度」の役割を重視した分析枠組みには限界があることも明らかになってきた。

こうした状況をふまえ、本研究では候補者選出のフォーマルな制度に加え、リクルートメントのような制度外のインフォーマルなやりとりにより焦点を当てることで、従来の分析枠組みの限界を超え、候補者選出過程の力学をより実態に即して理論化することが可能であろうと考えた。

(2) 研究代表者の取り組み

研究代表者は、過去に日本の5つの政党の関係者(職員、議員など)に候補者選出過程について数十件のインタビューを行い、その過程で新聞報道が基礎資料としてはきわめて不十分なことを明らかにし、インタビューを活用した質的研究を活用する意義を示した。他方で、19世紀アメリカ・ペンシルヴェニア州の全カウンティにおける政党候補者選出方法を地方紙の悉皆調査で明らかにした経験から、計量分析による全体像の把握も必須であると強く感じるにいたった。

そのため、本研究では、インタビューをもとに明らかになった候補者選出の実態をコーディングしてデータベース化し、候補者データや選挙結果データとも組み合わせる計量分析を行うことを考えた。

(3) 事例の選択

本研究では、候補者選出過程の制度化の初期段階にある日本、既存の選出方法をめぐって新たな展開がおきているアメリカ、制度が運用される文脈の重要性を考察するのに最適なボツワナを、当初研究対象とする予定であった。事例を三つの異なる地域から選んだのは、多様な文脈のなかで展開される候補者選考のあり方を比較考察することにより、候補者選出をめぐるより包括的なモデル構築に資すると思ったからである。しかし、実際に取り組んでいくなかで、ボツワナについては現地でのフィールドワークの見通しがなかなか立たず、研究期間内に進めることが困難と判断した。ボツワナの実例は、日本の一党優位に近い政党制度のもとで運用される予備選挙について考察することが目的であ

ったが、代わりに、二大政党制のもとで予備選挙制度が活用されているガーナを題材に選んだ。

2. 研究の目的

本研究課題の申請時における当初の研究目的は、政治学において近年注目が増しているもののまだ研究蓄積の浅い分野である政党候補者選出方法について、日本、アメリカ、ボツワナを素材として、地域的文脈を越えた比較分析を行うものであった。(対象となる事例については、1.で述べたとおり、ボツワナの代わりにガーナを扱うことになったが、全体としての研究趣旨に影響はない。)

候補者選出のフォーマルな制度だけでなく、実態としての運用や、インフォーマルなリクルートメントの過程など、従来の分析枠組みでは十分に把握されてこなかった側面を重視することが本研究の特徴である。インタビューを軸とした質的研究により、候補者選出方法が政治的リクルートメントや潜在的候補者による自己選抜、議員就任後の政策活動に与える影響などを抽出することで、候補者選出方法の類型化を再考する。これを選挙データなどを用いた計量分析と組み合わせることで、候補者選出方法が候補者の構成、本選挙の結果、党内の権力構造に対して与える影響の理論化にも取り組む。

本研究の独創性は以下の点にある。フォーマルな制度が実態としてどう運用されているか、また、制度の運用に外的環境がどのような制約を課すか明らかにすることで、候補者選出方法の本質をよりの確につかんだ類型化、理論化を行う。さまざまなアクターがどのように潜在的な候補者を探しだし選考過程に送り込むのかというリクルートの過程に光を当てる。候補者選出方法の比較分析はこれまで欧州やラテンアメリカなど同一地域内で行うことが主流であったが、本研究では地域を越えて国情が大きく異なる重要な事例を選ぶことで、従来見逃されがちだった要因や条件を抽出し、より普遍的な分析枠組みの構築に貢献する。

3. 研究の方法

本研究では、日本、アメリカ、ガーナすべての事例において、メディア報道などからはわからない候補者選考の実態を、詳細なインタビュー調査をもとに明らかにすることを重視した。候補者選出制度の実際の運用と、人材のリクルートのあり方、外在的な環境要因による制約を把握することで、フォーマルな制度を軸にした従来の類型化や分析枠組みを見直し、比較研究に新たなツールを提供できると考えたからである。インタビューにあたっては、潜在的候補者が選考過程に名乗り出るまでの意思決定プロセスをあぶり出すために、フォーマルな制度の外でのやりとりを把握することを重視し、政党関係者や候補者など関連アクターの目から見た選考の

実態を再構築するよう試みた。

4. 研究成果

以下、事例ごとに助成期間終了時の研究の進捗と成果をまとめる。

(1) 日本

日本については、自民党が2012年衆議院選挙に向け公募で候補者公認を行った83選挙区(28都道府県)すべてについて、公募実施関係者(都道府県連役員・職員、公募選出衆議院議員、公募落選者など)をインタビューし、公募実施に至った経緯、公募制度と実際の運用、リクルートメント、公募制度への評価などを聞き取ることを目標としていた。最終的に、公募の制度、実態、外的制約、リクルートメントのあり方などをコーディングし、データベース化して、制度選択の要因、候補者タイプと選挙結果へのインパクトなどについて統計分析を行うためである。

しかし、国会会期中に東京でインタビューできる現職議員はともかく、すでに政界を去っているアクターなど地方での聞き取りが不可欠なケースも多いなか、アクターとコンタクトをとる難しさや研究代表者の時間的な制約もあって思うように進まなかった。最終的にある程度調査を進められたのは全体の3分の1程度にとどまり、聞き取った個別具体的な選挙区事情は多くの場合開示できないものの、匿名性を維持したデータとして統計処理できるほどの完全性にも欠けるため、成果の公表は滞っている。今後時間の経過とともに、関係者の証言に依存する情報収集が困難になっていくことが予想されるなか、早期に一定の区切りをつけて分析を公表する方法を模索中である。

(2) アメリカ

州法が二大政党に実施を義務付けるアメリカの予備選挙や党大会については、従来もっぱら予備選挙の種類(閉鎖・開放型)が選出される候補者の政策選好、本選挙での得票率、(当選した場合の)議会における投票行動に与える影響に研究が集中してきた。しかし、ティー・パーティー(TP)運動が独自候補を主流派候補にぶつけることで共和党予備選挙に旋風を巻き起こした2010年以降、共和党主流派が各地で対抗馬の擁立に動いたり、2014年選挙に向けて複数州で指名制度の変更を模索したりするなどの動きがあった。

本研究では、当初こうした共和党候補者選出過程における主流派とTPの対決構図における候補者リクルートメントに着目する予定であったが、その後2016年大統領選挙にむけて両党のアウトサイダー型候補が大躍進するにいたり、前述の枠組みに収まらない力学に対応すべく分析視角の修正を余儀なくされた。全体的な調査活動の遅れもあるなか、党エスタブリッシュメントが政党候補者指名において果たす役割という着眼点を維持しつつ、最終的には、2016年選挙敗北を機に

奮起したリベラル陣営で展開された大規模な新規候補者リクルートメントに注目することにした。これに関しては、一度渡米し現地での聞き取り調査を行ったが、この新しい候補者たちのターゲットが2018年中間選挙であるため、助成期間内に一連のインタビュー調査を完結し選挙結果と照らし合わせる事ができず、現在も作業を継続中である。

(3) ガーナ

アフリカでは、過去5年の間に15の国で政党候補者選びのためになんらかの形で予備選挙が用いられてきており、各国での導入の契機、制度の詳細、運用の実態などは、候補者選出研究における新たな事例の宝庫を提供している。候補者間競争を制度的に制御することが民主主義の定着にどのように資するのか、という視点に立てば、アフリカ随一の民主主義成功例とされるガーナの予備選挙の実態を分析する意義は大きい。

ガーナは予備選挙を導入したアフリカ諸国の中でも治安が安定しているだけでなく、政治に関するものであっても自由な調査活動が可能で群を抜いた存在であることが現地訪問によって明らかになった。現地での調査においては、国会議事堂内での国会議員インタビューのほか、首都アクラの政党本部訪問、地方都市における政党組織幹部へのインタビュー、キャンパスでの学生活動家たちへの聞き取りなど、自由に行うことができた。その結果20を上回る選挙区の様子を見聞することができたが、予備選挙データの入手が難航しているため、助成期間終了までにデータ分析と成果の公表に漕ぎ着けられなかった。

今後の予定としては、政党間競争のあり方を類型化したうえで、それぞれのカテゴリーに該当する選挙区を絞り込み、それぞれの選挙区で改めてより重点的に現地調査を行うことで、候補者リクルートメントと予備選挙の過程を明らかにしたい。これまでの聞き取りから、予備選挙という候補者選出手法によって潜在的な候補者の出馬意思決定や当選後の政策活動、政治家としてのキャリア設計が強く規定されることがわかっているが、この選出方法ゆえにガーナという新興民主主義国家にもアメリカなどと共通する候補者・議員の行動パターンが生まれていると考えられる。こうした、制度の存在が導く政治文化の発達という視角での研究は少ないので、重要な貢献が期待できる。

以上のような各事例をめぐる進捗状況から、全体を統合する理論モデルの構築作業まで助成期間内にとりかかれなかったが、今後個々の事例ごとに着実に成果をまとめて公表していくなかで、理論的な取り組みも進めていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Kaori Shoji, Ching-hsin Yu, and Eric Chen-hua Yu. 2014. "Innovations of Candidate Selection Methods: Polling Primary and Kobo under the New Electoral Rules in Taiwan and Japan," *Japanese Journal of Political Science*. 15(4): 635-659.

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計1件)

Eric Yu, Kaori Shoji, and Nathan F. Batto, "Innovations in Candidate Selection Methods," in Nathan F. Batto, Chi Huang, Alexander C. Tan, and Gary W. Cox eds. *Mixed-Member Electoral Systems in Constitutional Context - Taiwan, Japan, and Beyond*. University of Michigan Press. (2016)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

庄司 香(SHOJI, Kaori)

学習院大学・法学部・教授

研究者番号：20515647

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()